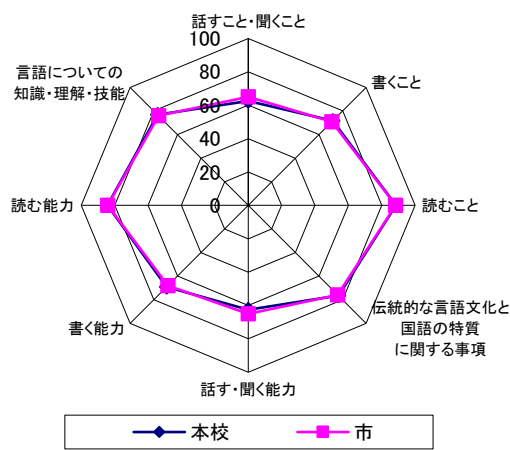


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	62.6	65.0	62.9
	書くこと	71.7	70.9	71.3
	読むこと	88.5	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.4	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	62.6	65.0	62.9
	書く能力	69.1	68.0	68.0
	読む能力	84.3	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	76.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

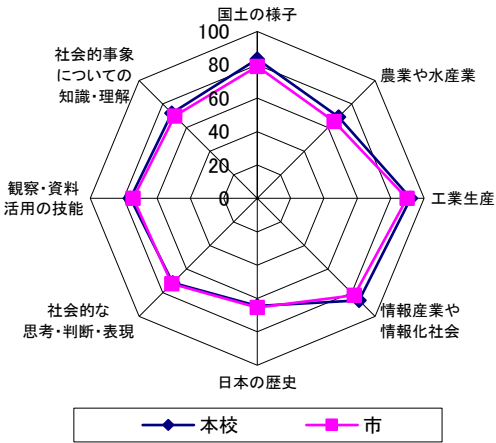
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●本校の平均正答率は62.6%で、市平均を2.4%下回っている。特に、話し合い手の意図を考えながら内容を聞き取る問題の正解率が低く課題が残る。 ○計画的に話し合いをもつために、司会者がどのような進行をすればよいか、話す内容を具体的に記述する問題の正解率の方は高かった。	・話し合い活動をする中で、自分の考えを話したり、司会をしたりする経験から「話す」力はついてきている。 ・「聞くこと」については、国語のみならず様々な場面で、相手の伝えたいことを意識して聞く習慣をこれまで以上に付けさせていきたい。また、聞いたことから考えたことを書く学習を意図的に取り入れていく。
書くこと	○本校の平均正答率は71.7%で、市平均を0.8%上回っている。 ●指定された長さで文章を書くことについて、正答率が低かった。	・要点を適切にまとめる指導をしていく。 ・文章を書く際には、構成メモや下書きをする習慣を身につけさせたり、内容や順序を考えてから書き出したりすることができるようにしていく。
読むこと	○本校の平均正答率は88.5%で、市平均とほぼ同じであった。 ●物語文では、場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題の正解率が低かった。	・物語文に対して、興味を示す児童は多いので、図書室や読み聞かせ等、物語文に身近に触れる環境をつくる。 ・物語文教材では、登場人物の心情変化について文章に即して読み取れるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は76.4%で、市平均を0.6%上回っている。 ●漢字の読みの正答率は高いが、書く方が低い。	・漢字や言語の習得については、個人差が大きいので、個々に応じたきめ細やかな指導を行っていく。 ・学校での学習に加え、漢字ドリルを効果的に活用し、繰り返し学習の充実を図る。 ・既習の漢字の復習を行う機会をつくる。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	83.5	79.1	74.9
	農業や水産業	69.0	65.1	63.7
	工業生産	92.0	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	86.4	82.2	73.1
	日本の歴史	64.5	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.5	72.2	69.0
	観察・資料活用技能	76.0	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	72.2	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

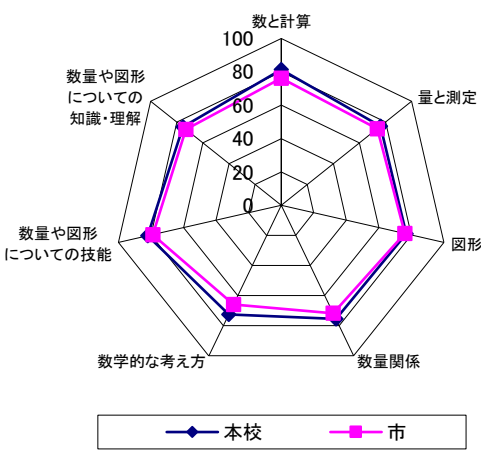
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○本校の平均正答率は83.5%で、市平均を4.4%上回った。 ○日本周辺の海洋名を答える設問の本校の平均正答率は91.4%で、市平均を8.4%上回った。 ●日本の国土の北端、南端を答える設問は、市平均を6.6%上回ったものの、本校の平均正答率は65.4%で、比較的課題と見られる。	・地図に慣れ親しみ、言葉だけでなく、新出の地名に関しては、その位置を地図で確かめ、言葉と地図を一致させるように、今後も指導を重ねていく。
農業や水産業	○本校の平均正答率は69.0%で、市平均を3.9%上回った。 ○本領域の4つの設問に対して、いずれも市の平均正答率を若干上回った。 ●国産と外国産の農産物の値段の違いを資料から読み取り記述式で回答する設問は、市平均を7.2%上回ったが、本校の平均正答率は47.5%と、低い値を示した。	・単に知識として理解するのに留まらず、いくつかの資料を適切に読み取り、設問に合う形で回答するよう、繰り返し指導していく。また、記述式の回答に対して、言葉をうまく使いこなし、文脈で説明ができるよう指導していく。
工業生産	○本校の平均正答率は92.0%で、市平均を2.3%上回った。 ○車の安全装置の役割を答える設問に対しては、本校の平均正答率は93.8%で、よく理解していると言える。	・工業に関する興味・関心が高い実態でもあるので、今後も日常的话题として、新しい情報を提供できるようにする。
情報産業や情報化社会	○本校の平均正答率は86.4%で、市平均を4.2%上回った。 ○医療での情報ネットワークに関する設問に対する本校の正答率は91.4%で、ほぼ理解していると言える。	・情報に関する興味・関心が高いので、今後も日常的话题として、新しい情報を伝えるようにする。
日本の歴史	○本校の平均正答率は64.5%で、市平均をわずかに下回った。 ○弥生時代の人々の生活の様子を選択する設問、安藤広重の「東海道五十三次」から浮世絵の名称を選択する設問の平均正答率は、それぞれ、85.2%、93.8%で市の正答率を10%以上上回った。 ●市平均より10%程度下回った設問は、聖武天皇が大仏づくりを行った理由の選択、並びに、蒙古襲来絵詞の絵を見ていつの年代か理由を説明しながら記述式で回答する問題で、それぞれ、75.3%、24.7%であった。	・1つの資料から事象をしっかりとらえるだけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、その時代の様子を明らかにしていくように指導を重ねていく。 ・農業の領域と同様、日本の歴史の領域においても、記述式の回答に課題が見られるので、社会科においては、資料を通して分かることを自分の言葉で、的確に表現することができるよう、日常のノート指導等を通して指導していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.4	76.2	72.9
	量と測定	76.2	73.6	70.6
	図形	76.9	76.0	72.1
	数量関係	75.5	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	72.5	65.9	58.0
	数量や図形□についての技能	82.0	78.9	76.2
	数量や図形□についての知識・理解	75.4	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

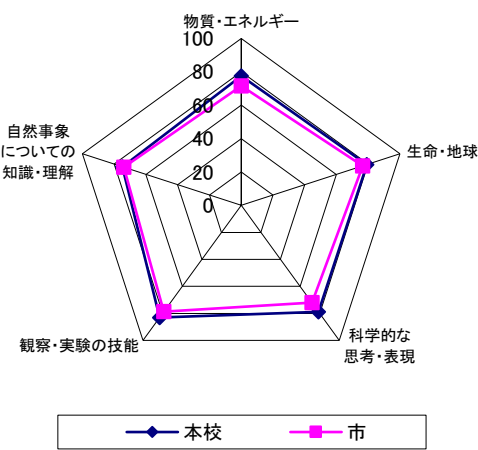
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は81.4%で、市平均を5.2%上回った。 ○小数の除法の文章問題は、市平均を6%～18.6%上回った。 ●「白と黄の球根が縦に4回並ぶわけを説明する」設問では、市平均を上回ったものの、正答率が49.4%で、課題と考えられる。	・プリントやドリル等の計算問題を繰り返し練習するとともに、フォローアップCDを活用して習熟を図る。 ・分数のわり算の意味理解では、単に「除法の逆数をかけると結論づけるのではなく、「除数を整数化する」という考えから導き出されることを復習する。 ・公倍数、公約数、最小公倍数、最大公約数について復習し、それらの文章問題では、数直線、ベン図、数表などを用いて筋道を立てて考えるよう改めて指導する。
量と測定	○本校の平均正答率は76.2%で、市平均を2.6%上回った。 ○直径が与えられた円の面積を求める式を選択する設問は正答率が95.1%で、定着が十分図られた。 ●教室の面積と児童の人数から、1㎡あたり人数を求める式を選択する設問は、市平均を上回ったものの、正答率は34.6%に留まり、課題が見られる。	・既習の乗法、除法の場面でも、「単位量あたり」の考えが用いられていたことをおさえ、計算処理に偏ることなく、図を活用して場面を捉えられるよう、指導に努める。
図形	○本校の平均正答率は76.9%で、市平均を0.9%上回った。 ○3辺の長さを使って合同な三角形を作図する設問の正答率は95.1%で、ほぼ定着が図られたと言える。 ●線対称な図形の対象の軸が何本あるか求める設問は、正答率が61.7%で、市平均を5.1%下回った。	・中学校の図形の移動(対称移動、回転移動、平行移動)の学習へ結びつくよう、対称図形の観察や操作を通して、定義や性質の理解を深める。
数量関係	○本校の平均正答率は75.5%で、市平均を3.7%上回った。 ○比例の関係を、xとyを使って式に表す設問は正答率が93.8%で、十分定着が図られた。 ●「調べた分量と作りたい分量の割合(比)を読み取り、足りない材料の量を求める」設問の正答率は38.3%で、市平均より8.5%高いものの、課題が見られる。	・割合とは「比較量が、基準量(1とみる)の何倍にあたるかを表す数」ということをおさえ、「割合＝比較量÷基準量」の式について十分理解させる。また、スーパーでの実際の買い物場面などを想定して問題作りをさせ、基準量、比較量、割合の関係の理解を図る。 ・比の考えは、割合、比例と反比例、除法の性質、分数の性質とも結びつくものなので、相互に理解が深められるように、共通性に着目する指導を工夫したい。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.5	71.6	67.4
	生命・地球	79.2	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	78.8	72.1	68.8
	観察・実験の技能	83.0	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	74.8	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は77.5%で、市平均を5.9%上回った。 ○振り子の学習、水溶液の学習については、市平均を大きく上回っている。振り子の周期は長さによって決まることや水溶液の性質がよく理解できている。 ●電流の学習については、観点別に見ると市と同程度、もしくは低い観点も見られた。基礎的な知識は定着しているものの、知識を活用することに課題が見られた。	○「電流のはたらき」について、学習した知識と日常生活との関連を図る。ものづくり等の学習を通して、学習した内容が自分たちの身の回りで使われていることを実感させ、より深い理解を促していく。
生命・地球	○本校の平均正答率は79.2%で、市平均を2.6%上回った。 ○月と太陽の学習において、月と太陽の位置関係から月の見え方を考えることはできている。 ●一方、月の形から太陽の位置や時刻を指摘することに課題が見られた。 ●人の誕生や動物の体のつくりと働き of 学習においては、実験などで確かめることが難しい学習内容に課題が見られた。	●唾液のはたらきなど、実験で確かめることができることに関しては理解が伴っている。一方、調べ学習で学習するような問題については、より実感を伴って理解できるよう映像資料を活用するなど教材の工夫を行う。